

なでしこ通信 第 45 号

《隔月発行》

— 目 次 —

- ★明治人の家庭教育に思う
筑波大学名誉教授 中川 八洋
- ★第 3 回研修会「歴史から学ぶ日台の絆」のご報告
- ★第 4 回研修会のご案内
「教科書採択を振り返って」
講師 小田道人司 氏 大津寄章三 氏
高橋克好 氏 相原宗正 氏
- ★拉致被害者を救出の愛媛 10 万人署名にご協力を！
- ☆事務局から

明治人の家庭教育に思う ■ □

中川 八洋・筑波大学名誉教授

『与謝野晶子に学ぶ～幸福になる女性とジェンダーの拒絶』（グラフ社）より

"父性"に関する与謝野晶子の主張のほうは、1919 年の作品「寧ろ父性を保護せよ」でよくわかる。それなりに立派な内容のものであり、平成時代にベストセラーになった『父性の復権』（林道義）を思い出させる先駆的なアピールであった。

「子女の養育にも教育にも父母の双方が公平にその親たる愛と勤労とを尽くすのが正当で

3月に続き 高橋史朗先生の 親学講演会 が開催されます。

7月13日（金）18:30～20:30 松山市民会館 小ホール会議室

す。父は主として屋外に働く者で、母は専ら家庭の労務に当たらねばならないと云うことを主張する男子があるなら、……父性の退化、父性の退廃です」「母のみが愛をもって育てると云う風では、子供は父の人間性に触れずに仕舞います」

この晶子の"父性の下での子供教育"については、2004年の夏、アテネ・オリンピックで銅メダルをとった女子レスリングの浜口京子選手とその父親（アニマル浜口）との涙と笑いの感動を共にした父娘関係において、なんとなくであったが、再認識された。

参考までに米国について言えば、倫理道德教育は、主にキリスト教会が担うが、それを父親が補完する習慣が今も根強く残っている。家庭における"父性による道德教育"である。アメリカにはアニマル浜口がたくさんいると思えばよい。このため、父親の子供への家庭での道德教育用教科書は、米国ではよく売れる。例えば、レーガン大統領（1981～9年）の下での初代教育長官であった W.ベネットが、引退後に編集した大著『美德の教本』は、1993年に売り出され、すぐに400万部を超えた。…

（幸田）露伴や晶子が行っていた家庭での生活習慣の躰は、かなりの部分は社会マナーとも繋がっているから、今日の日本で見られる仰天する光景—たとえば、電車の中でのものを食べる、化粧する、床にあぐらをかいて座り込むなど—は、1960年代までの日本では万が一にも無かった。レベルの差はあれ、日本には「露伴のお父さん」「晶子のお母さん」が過半を占めていたのである。

この意味で、三大躰教育一言葉遣い、立居振舞い、生活習慣・生活ノウハウのうち、生活習慣・生活ノウハウだけでも早急に復活すれば、品位とマナーを欠如した昨今の日本の「動物化した子供たち」が国中から一掃されることは間違いない。ほんの二世代前までの日本はそうだったのだから。

さて、幸田文の作品を取り出したのは他にもない、子供の躰の主体が母親ではなく父親であるという、最も重要な事柄を鮮明にしてくれるからである。とりわけ、家庭における道德教育と社会規範教育は「父親」こそその任になるから、「父親」たるものその責任から逃れようとしてはならない。秩序感覚は、「父親」にしか教えることができない。この秩序感覚が身につかない限り、社会規範に沿い、また社会規範を担う次世代は育たない。ニッポンの子供たちを覆う無規範の蔓延と礼節の喪失は、この秩序感覚を教える「父」が不在となったからである。

「父親の教育」は、父親でなくとも、母親にその能力があれば、道德教育や社会規範教育ができるのであるが、一般にはそれらを「父性の教育」と総称する。道德にしろ社会規範教育にしろ、それらは善と悪とに区別して「善を選択する」こと、是と非とに区別して「是を選択する」ことを、習慣になるまで子供に訓練を施すことが根幹をなす。これを「父

性の教育」というのである。

日本の父親がすべからく幸田露伴にならない限り、二十一世紀の日本の社会は、いずれ坂道を転がるよりも速い猛スピードで衰退と荒廃の度を高めていくだろう。このような危機感を持って、「父性の教育（子育て）」を国民に訴えた偉大な女性政治家が二十世紀にいた。英国のマーガレット・サッチャーである。1979年から1990年まで11年間も首相として英国の国家再生をリードした"鉄の宰相"である。

サッチャーは、この「父性の教育」の重要性を、「シングル・マザーの子供なんか、英国は知らない」「シングル・マザーには、社会保障でも差別しよう」と、シングル・マザーへの攻撃的な非難と社会保障の適用制限を、次のように国民にアピールしたのである。日本であつたら、「差別!」と大騒ぎになり、このような総理は、確実にすぐに辞任に追い込まれる。

「家族の強化は、片親、特に若い未婚の母親の扱いから始まらなくてはならない。……その子が男の子で父親不在のまま育っていくと…問題が生じることが多い」「子持ちの未亡人、離婚後の婦人と、決して結婚しない未婚の片親（シングル・マザー）とを（社会保障の上で）区別しなければならない）」

シングル・マザー問題は、独身女性が墮胎をして出産しない日本ではほとんど発生しないが、日本では「父親がいるのに父性の教育が欠如している問題」は深刻である。

第3回研修会のご報告

『歴史から学ぶ日台の絆』

愛媛新聞の紹介記事（翌4月2日）

「日台友好へ歴史を学ぶ 砥部で講演—戦前の技師紹介」

日本と台湾の友好をテーマにした講演会が1日、砥部町宮内の砥部町文化会館であり、戦前の日本統治時代の台湾でダムやかんがい水路建設を手がけた技師の八田與一氏（1886～1942年、石川県出身）の生涯を紹介。人と人とのつながりの大切さを学んだ。

愛媛日華親善協会（蔵原一郎会長）と健全な男女共同参画社会をめざす会（青井美智子会長）が主催し、市民約20人が参加。八田氏に関する著作がある元中学校長の古川勝三さん（68）=松前町在住=が講演した。

古川さんは台湾の日本人学校に勤務した際、現地で八田氏が尊敬されていることに関心を持ち研究を開始。水不足や洪水、塩害といった台湾の悩みを解決した八田氏の業績だけでなく、「人間はみな同じ

との思想で、ダムを造るだけでなく台湾の農民にどう役に立つかを考えていた」とその人柄を称賛した。
蔵原会長（82）は「台湾との友好を深める上で、日本国民として何をすればいいのか考えていきたい」と語った。（加藤太啓）

【古川先生のご感想】話していて皆さんの表情が生き生きしていましたし、相づちをして聴いておられる方もいて、気持が良かったです。後の座談会も素敵で、本音で話せる会でした。これまででとても印象に残る講演会になりました。

第4回研修会のご案内

『教科書採択を振り返って』

昨年の夏、全国で行われた教科書採択において、本県では育鵬社版が約20%のシェアを獲得し、全国の注目を集めました。しかし、新居浜市や東温市での惜敗、また松山市での採択をのがすなど、今後の課題も残っています。その足跡をたどる中で次回の採択戦（27年）に向けての方向性を考えたいと思います。

■日時：5月13日（日）13:30～16:00（開場：13:00）

■会場：砥部町文化会館 3階 視聴覚室（砥部町役場横 P有 TEL 089-962-7000）

■会費 1,000円 学生無料

■講師 【DVD】小田道人司氏 今治市教員委員長（当時） / 渦潮電機（株）会長
大津寄章三氏 伊予郡松前町立岡田中学校教諭 / 育鵬社執筆者
高橋 克好氏 日本会議四国中央支部長 / 実を結んだ草の根活動
相原 宗正氏 浮嶋神社宮司/市議会を動かした東温市の取り組み

【共催】◎ 愛媛県教科書改善協議会（会長 重松恵三）

拉致被害者を救出の愛媛10万人署名にご協力を！

家族会・救う会では、「今年を勝負の年」と定め、なんとしても全ての拉致被害者を救出するために、全国で1000万署名の達成と、4月28日と9月2日に国民大集会を実施すること、9月を全国一斉運動月間とすること等新しい運動方針が決定されました。

これまでの署名総数は855万筆となっており、さらに国民世論に訴え、今年中に1000万署名をめざしています。署名運動第一次締切：7月31日、第二次締切：10月31日となっております。

署名用紙と返信用封筒を同封致しました。ご協力をお願い致します。7月25日（水）を目途にめざす会事務局までお送り下さい。用紙が足りない場合は、コピーしていただくか

事務局までご一報下さいませ。

愛媛県の特定期失踪者のひとり大政由美さんのお父様、峰男氏が4月4日に亡くなられました。亡くなられる2ヶ月前、「わしは死んでも忙しいけんの」と呟かれたそうです。十数年前、峰男・悦子夫妻は「先に死んだ方が、天国から由美の邪魔をする輩をのけよう」と約束されていたそうです。悦子さんは「主人は中途半端な事を一番嫌うから、一生懸命頑張らなきゃ」と言っておられます。

なお、10万人署名運動実行委員会の実行委員長は加戸守行・前知事でございます。4月13日の準備会で加戸実行委員長は、知事を退かれてから久々の実質的な職に「武者震いしている」と張り切っておられました。

◇◇◆ 事務局から ◆◇◇

◆親学基礎講座（親学推進協会主催）のちらしを同封致しました。定員40名で締め切られます。高橋先生は午前中の2講座を受け持たれますので前日から松山に入られます。そこで、その夕方に講演会をお願いすることになりました。講演会のちらしは会報46号とともにお送り致します。

◆与謝野晶子は、かの有名な『君死にたまふことなかれ』のために反戦歌人のように誤解され、中学歴史教科書東京書籍版の日露戦争の記述は大方この詩に費やされています。が、彼女の軍人の武勇への尊敬の情、天皇・国家への忠誠についての尊敬の念は、当時であっても、現在からすればきわめて高いものがあつた、と中川八洋氏は書かれています。あの一節が何故生まれてしまったのか。本書をお読み下さいませ。

◆毎月3~4回、月曜日にランチ学習会をしております。お気軽にご参加下さい。

◆年会費（1000円）の切れる方に払込取扱票を同封しております。会員1000名をめざしており現在782名でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

◆払込取扱票のご依頼人の欄が空欄のものが年に1回くらいございます。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井 美智子

〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

ホームページ <http://www.mezasukai.com/> 電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903

メール michikoaoi25@yahoo.co.jp (件名を明記してください)